

公式 LINE

LINE

身近な話題を発信します
友だち登録をお願いします
後援会入会もお気軽に！

アジア・アジアパラ競技大会では、私もいくつかの競技を観戦し、選手たちの熱い戦いに感動の連続です。選手たちが見せてくれた闘志にあやかり、あと半年となった議員の任期をしっかりと務めてまいりたいと思います。



発行のご挨拶

大府市議会議員
ふじもと宗久
政治活動新聞

ずっと大府 もっと大府

令和８年秋号

特集 ふじもと宗久はこう考える

市政には、暮らしに関わるさまざまな課題があります。大切なのは、目の前の要望に応えるだけでなく、その先にどのようなまちを目指すのか、考え方の軸を持つことです。

今回の政治活動新聞では、私が日頃の活動や市民の皆さまとの対話、行政視察などを通じて感じてきたことをもとに、いくつかのテーマについて、私自身の考えをお伝えします。「ずっと大府で生きていく。だから大府をもっと明るく豊かに」するための策を、皆さまも一緒に考えてまいりましょう。

私はこう考える① 住みよいまちについて



石ヶ瀬コミュニティのごみゼロ運動に参加、多くの地域住民の皆さんが参加されました。（5月24日㈯、石ヶ瀬小学校にて）

住みよさは、インフラや福祉の充実だけじゃない

地域力は参加力だ

大府市は、交通の利便性や医療、福祉、子育て支援などが充実し、住みよいまちとして高く評価されています。しかし、「住みよさ」は、それだけではありません。私が考える「住みよさ」とは、人の人とのつながりがあることです。

かつて私が会社員の頃、転勤を重ね、いくつもの集合住宅で暮らしました。その中で本当に住みよいと感じたのは、設備の充実した建物であることよりも、住民同士に程よい関係があるということでした。

私には「人の幸福は、人によってもたらされる」という持論があります。

地域の祭り、清掃や見守り活動、文化スポーツ活動など、身近なところには地域と関わる機会があります。参加することで顔見知りが増え、声を掛け合い、いざという時に支え合える関係が生まれます。

無理をする必要はありません。できる時に、できる範囲で関われればいい。地域力は「参加」から生まれます。

皆さんも、身近な地域活動に、ちょっとだけでも参加してみませんか。

私はこう考える② 教育の原点について

学校は社会課題の受け皿じゃない



石ヶ瀬コミュニティ、あいさつ運動。（現場の様子を基にしたイメージ画像）

「ありがとう」と思える心 すべての学びの土台に

近年、子どもを取り巻く社会環境は大きく変化し、学校教育に求められる役割も年々増えています。人権・法教育、ICT・AI、闇バイト対策、ヤングケアラー、平和教育――。どれも現代社会において重要な課題であり、子どもたちが将来を生きていくために必要な知識です。

その一方で私は、「学校は本当にこれだけ多くのことを担えるのだろうか」と考えることがあります。何より、子どもたちに受け止められる量にも限界があります。

だから私は、「何を教えるか」を増やすこと以前に、「その知識を受け止める土台をどう育てるか」が大切ではないかと考えました。

「学校ごはん」で 感謝の心を育てる

本年度より大府市内の小・中学校は給食費が無償化されました。大変ありがたい制度ですが、時間が経つにつれ、それが「あたり前」になってしまうことも心配しています。

私は、学校給食は子どもたちに「ありがとう」を育む最適の教材だと考えています。食材を育てる人、調理する人、給食無償化を支える市民の皆さんへの感謝はもちろん、大府市ではオーガニックビレッジ宣言のもと、市内産の無農薬米や伝統野菜も給食に取り入れられており、地域の恵みや農業への理解を深めることにもつながっていきます。

加えまして、大府市は全校が自校調理方式です。だからこそ私は、「学校給食」という名称に、親しみを込めて「学校ごはん」という愛称を提案したいと思います。

食べることへの感謝、人への感謝、地域への感謝。「学校ごはん」を通して、そんな心を育むことも教育の大切な役割ではないでしょうか。



大人の方も学校給食への関心を持っていただく取組として、市役所食堂での学校給食のメニュー化も提案したいと考えています（写真は昨年、学校給食米向けの田植え風景）

令和８年４月～９月 半年間の主な活動・参加行事

4月　地域自治区・コミ総会、小中学校入学式、階ベンチリフォーム、東海市議会議長会（静岡）、愛知工務店 110 周年式典、大府長寿会・小唄保存会総会

5月　臨時議会、共和駅駐輪場開設式典、愛知県植樹祭、商工会議所女性会総会、国際交流協会総会、禁煙キャンペーン、学童協総会、森岡支部安心安全重点地区発会式、森岡支部総点検

6月　市議会６月定例会、知多北部議長会、時局講演会（片山さつき大臣）、おもちゃ美術館起工式、カラフルウイーク講演会、都市間交流（木曽町、王滝村）、こどもふるさと検定

7月　霞が関陳情（国交省、文科省、財務省）、会派行政視察（遠野市、紫波町、東松島市）、議員研修会、愛知県消防操法大会、共和病院盆踊り、石ヶ瀬夏まつり、自民党大府市支部総会、農業委員会改選、武豊町議会視察訪問、国道 366 号視察勉強会、瀬戸大府東海線整備促進同盟、知多北部議員研修会、刈谷市議との情報交換会

8月　大府夏まつり、知多五市議長会、教育要望書受理、NHK のど自慢、大府の戦争体験を語り継ぐ有志の会、大府北中バスケコート完成式典、自民党愛知一区党員大会、石ヶ瀬議会報告会、東部知多衛生組合議会

9月　市議会９月定例会（決算審査ほか）、市制 56 周年式典、日韓交流フェスティバル、石ヶ瀬自治区アダプトプログラム（矢戸川清掃）

発行者：藤本宗久　大府市柊山町五丁目３０６　Tel&Fax　0562-51-1639　Mobile　070-2227-6924

私はこう考える③

地方議員の役割について

市政を監視、評価する
市民の意見を市政に反映させる
国・県を動かし、市政につなぐ



【つなぐ役割】国や県の制度や財源を大府市へつなぐ。そして、市の課題を県へ、そして必要なものは国へつなぐ。
写真は、6月開催の時局講演会。片山さつき財務大臣と日高あきら県議。森岡公民館にて

地方議員には、右の見出しの通り、大きく三つの役割があると考えています。今回はこの内の三つ目「国・県を動かし、市政へつなぐ」について取り上げます。

市が行う事業の中には、市だけの財源や制度では実現が難しいものも多くあります。国の各省庁には、政策目的に応じたさまざまな補助制度があり、大府市の事業に活用できるよう国へ働きかけることも、地方議員に求められる役割だと考えています。

私たち大府市議会親和クラブでは、今年も7月に、国交省、文科省を訪問し、市政の課題や必要な支援について要望・陳情活動を行いました。

「陳情」で体育館空調整備

大府市では、令和3年度までにLPガスを燃料とする空調機をすべての市内小中学校体育館に設置しました。これは経済産業省の「石油ガス災害バルク等の導入事業費補助金」を活用したものです。

平時は子どもたちの教育環境を改善し、災害時には避難所の暑さ寒さ対策として市民の命を守る設備となります。



「災害に強い」LPガス空調で
住民が安心できる避難所を整備

7月の熊本地震では、真夏の避難所における空調整備の重要性が改めて浮き彫りになりました。
大府では全ての小中学校体育館に空調機が設置されています

私はこう考える⑤

平和学習について



歴史に学び、今を直視し、未来を考える。答えを決めつけず、立場を超えて考え続ける姿勢を大切にしたいと思っています

戦争の悲惨さを語り継ぐこと

沖縄戦、広島・長崎への原爆投下、各地への空襲など、先の太平洋戦争によって多くの一般市民の命が奪われ、平穏な暮らしや家族の人生が一瞬にして失われました。また戦争中、日本もアジアをはじめとする多くの国や地域の人々に被害と苦しみを与えた歴史も忘れてはなりません。

戦争の惨状を知り、語り継ぎ、二度と繰り返してはならないと心に深く刻むことが、平和学習の大切な出発点だと思います。

戦争を起こさせないための知恵と術（すべ）を考えること

一方、今世界を見れば、戦争によって命や自由、ふるさとを奪われている人々が多くいる現実もあります。「戦争は反対」と願うだけで、相手からの攻撃を防ぐことができるとは限りません。

世界にはさまざまな国や民族があり、その価値観は地理、気候、文化、宗教、政治、歴史などによって形づくられ、話し合えば必ず分かり合えるというほど現実は単純ではありません。だからといって、決して「戦争は仕方がない」ということではありません。こうした人間や国際社会の現実を直視した上で、争いを抑える知恵と術（すべ）が必要なのです。

外交、国際協調、防衛、抑止、交流など、こうしたものをどう組み合わせ、戦争を起こさない、起こさせない環境をつくるのかを考えることも、平和学習ではないでしょうか。

私は、この二つがこれからの平和学習の「両輪」であってほしいと思っています。



【大府の戦争体験を語り継ぐ有志の会】 今年も朗読役で参加し、また一つ戦争の悲惨さを心に刻むことができました。

私はこう考える④

「子どもとデジタルの付き合い方」について

「画面を見る時間」を「本を開く時間」に

デジタルデトックスの取組を

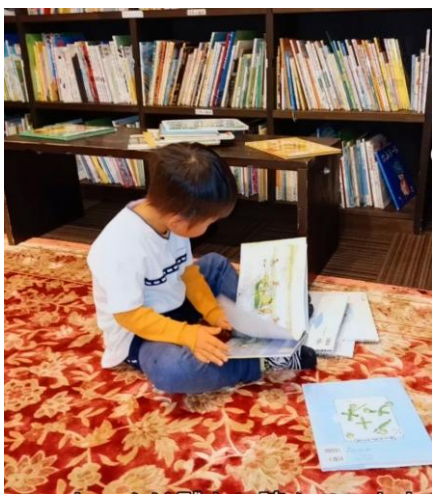
スマートフォンやタブレットは、子どもたちにとっても身近で便利な道具です。一方で、動画やゲームなどに長時間触れることで、睡眠や運動、家族との会話、読書の時間が減ってはいないでしょうか。大切なのは、デジタル機器を遠ざけることではなく、意識して画面から離れる時間をつくること、いわゆる「デジタルデトックス」です。

その時間に、改めて大切にしたいのが読書です。本は、言葉や想像力を育て、自分とは違う考えや気持ちに触れる機会になります。映像とは違い、文字から自分の頭の中で場面を思い描くことにも、読書ならではの価値があります。

「ブックスタート」の導入を

読書習慣は、大人になってから突然身につくものではありません。だからこそ、乳幼児期から本に親しむきっかけづくりが大切です。その一つが、赤ちゃんと親御さんに読み聞かせ体験と絵本を届ける「ブックスタート」です。

デジタルの時代にこそ、本を読む時間、人と話す時間、運動する時間を大切にする。子どもの成長に必要な時間とのバランスを、家庭だけでなく地域や行政も一緒に考えていく必要があります。



子どもに本を！
ひいらぎ山の子ども文庫は、毎週月曜14時～17時。絵本がたくさん。

行政視察　宮城県東松島市
～子どもたちで考える「デジタルとの付き合い方」～



大府市でも今こそ向き合うべき課題。
未来の子どもたちのために考えたい

宮城県東松島市では、子どもたちのスマートフォンやゲームなどの長時間利用への対策を課題として、「デジタルメディア・コントロールチャレンジ（でめこん）」に取り組んでいます。

特徴的なのは、子どもたち自身がデジタル機器との付き合い方を考えていること。市内の小中学生が話し合いを重ね、「東松島ゴール」を作成。平日の利用時間や就寝時刻などの目安を定め、家庭とも協力しながら実践しています。また、ポスターやキャラクターづくりなども子どもたち自身が考え、楽しみながら意識を高めています。

家庭・学校・地域が一緒になって取り組む東松島市の姿勢は、大府市においても大いに参考になるものと感じました。

【お詫びと訂正】

令和8年春号「おもちゃ美術館」に関する記事において、「大府デイサービス跡地」を誤って「長草デイサービス跡地」と記載いたしました。関係者や地域の皆さまにご迷惑をおかけいたしましたこと深くお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

E-mail　：　fujimoto_munehisa@yahoo.co.jp